

子育て親育て研修大会 報告

会場 山口県教育会館5階第1研修室

講師 山口大学教育学部

准教授 霜川 正 幸 先生

夢をはぐくむ家庭の元気～みつめなおそう 家庭教育～

1 P T Aに期待する

(1) 社会教育団体としての元気の源

- ①目的集団として機能していること
- ②生涯学習団体として機能していること
- ③地域全体、社会全体の期待と応援があること

(2) 今後も、教育、子育てや健全育成の推進役として期待している

2 家庭教育の重要性を考えよう

(1) 文部科学省「子ども生活実態基本調査」から家庭教育の大切さを再認識しよう

家庭での親の関わりと、今はやりの「学力」とは大いに関連がある

- ①家庭学習の時間は学年が上がるにつれて二極化する
- ②当然ながら、学力の高い子どもの家庭学習時間は長い
- ③その家庭学習の時間は親子の会話量に比例する
- ④親子間の会話が豊かな家庭の子どもは、精神的安定と学習指向性が強い
- ⑤その時、親子間の関係性がポイントである
- ⑥親の肯定的関わりが、子どもの学習時間を伸ばす。否定的関わりは逆もある
- ⑦学力が高い子どもの親は、自らが知的活動をし、知的・教育的環境を作る
- ⑧テレビ、ゲーム等について家族間で約束事のある家庭で育つ子どもの学力は高い
- ⑨学力の高い子どもは、時間、食事。言語等の基本的生活習慣が身につけている
- ⑩ゲーム、TV、ギャンブル等に係る親自体の行動が子どもに影響を与える

(2) 今こそ、家庭教育の大切さを再度考えたいもの やはり、親が「背中で教える」ことが重要ではないか

3 家庭教育の機能をみつめなおそう

(1) 家庭教育、学校教育、地域社会での教育には役割がある

それぞれが、それぞれの教育機能を発揮しながら、その連携の中ではじめて子どもは育つと考えたいもの

4 健全育成と家庭の在り方を考えよう

(1) 子どもたちの問題行動、少年非行等の傾向はどうか

- ①子どもの粗暴化、耐性の不足が見える
- ②性非行、性被害等が見えないところで増加傾向にある
- ③問題行動、非行の低年齢化と背景に家族の歪みがあるのではないか

(2) 子どもたちが失っているもの

- ①自尊心、自己肯定感の希薄さ



- ②キーパーソンの存在
- ③生活習慣と規範意識の低下

(3) 親としてできること

- ①子どもたちの生き抜く気持ちを支えよう
- ②子どもたちの生き抜く力を支えよう
- ③親子でコミュニケーション能力をつけよう
- ④一人一人を大切にする考え方を地域に根づかせよう

5 おわりにあたって
～県PTA連合会へのエール～